



書  
評

# がん診療レジデント マニュアル（第7版）

編：国立がん研究センター内科レジデント

B6変型 頁544 2016年10月

定価：本体4,000円＋税

[ISBN978-4-260-3] 医学書院刊



＜書評者＞ 西田俊朗（国立がん研究センター中央病院病院長）

私が専門医をめざし臨床で修練をしていた時代、コンパクトにその領域の知識や情報をまとめた本がどれだけ欲しかったことか。今でもそういう要望をもつ研修医やレジデントは多い。これまでその課題解決を目標に多くの本が出版されてきたが、満足するものがほとんどなかったのが現実である。

『がん診療レジデントマニュアル』の初版は1997年にさかのぼり、以来20年、国立がん研究センターの若手医師・レジデントが、実際に自分たちにとって役に立つ、欲しい・知りたい情報を徹底的に書き込んでつくってきた。幸いこれまで非常に高い評価を得ている。がん診療に関わる情報はこの間、指数関数的に増え、膨大なものとなった。このたび出版された第7版は、そのような状況にありながら、がん診療の基本—インフォームドコンセントや臨床試験、がん薬物療法の考え方から、各がんの診療に必須の医学知識や情報、診断・治療法、薬剤情報

を網羅し、しかもコンパクトである。確かにこれほどよくまとまった本はない。

しかも内容は最新。遺伝子パネル、Liquid biopsy やミスマッチ修復異常と免疫チェックポイント治療薬の効果と、ごく最近のトピックスまで網羅されている。

がん診療では高度の専門性に加え、医療の質や医療安全、患者満足度の向上等が求められる。そのためには多職種によるチーム医療が必須である。よいチーム医療を行うには、各チームメンバーががん医療の共通知識をシェアすることが欠かせない。その簡潔なまとめ方や内容のわかりやすさを鑑みると、医師だけでなく、がん医療に携わる看護師、薬剤師等にも、ぜひ目を通していただきたい本である。

標準的ながんの知識を漏れなくかぶさりなく（MECE）、網羅しているこの本は、臨床現場に臨む若手の医療職皆に、自信をもって推奨できる。